

生命（いのち）の安全教育【小学校（低・中学年）】 動画教材活用の手引き

動画の狙い

「生命（いのち）の安全教育」教材と指導の手引きの内容を踏まえ、授業等において、教員等が子供たちに効果的に「生命（いのち）の安全教育」を指導することができ、かつ、子供たちの理解を深めることを目的として作成したものであり、動画教材を活用して授業等を行う際は、事前に「生命（いのち）の安全教育」教材と指導の手引きを参照するなど準備した上で授業を行うこと。

動画教材の概要

小学校（低・中学年）向け動画教材は3つの場面に分かれており、全体を通して動画を視聴させるほか、場面ごとに分けて視聴させることができる。

- 「じぶんのからだ」も「ほかのひとのからだ」もたいせつ⇒00:32
- じぶんだけのたいせつなところ⇒02:13
- いやなきもち⇒04:45

指導のポイント

● 「じぶんのからだ」も「ほかのひとのからだ」もたいせつ

「じぶんのからだ」を大切にするためにできること、していることを考えさせる。
同時に「ほかのひとのからだ」も大切であることを意識させる。

【ワーク例】 普段、自分のからだを守るために取る行動を出し合う。

例：手を洗う、転ばないように気をつける、マスクをつける、など。

● じぶんだけのたいせつなところ

プールの時、水着を着るのはなぜか？自分だけの大切なところを人に見られない、また見せない、触らせないようにするためであることを理解させる。

【ワーク例】 視聴前に、自分だけの大切なところを問いかける。

予想される反応：頭、顔、からだ、心臓、など。

出てきた反応をきっかけに自分の体、全てが大切であることを伝える。同時に、他の人の体も大切であることを確認する。

理解をより深めるために動画教材を視聴する。

● いやなきもち

体を見られる、触られるなど、どんな時にいやな気持ちになるかを思い起こし、自分の大切な体を守るための対処法を伝える。

【ワーク例】 視聴前に、人からされて、いやな気持ちになるのはどんなことか話し合う。

予想される反応：急におどかされる、コソコソばなし、ジロジロ見られる、など

いやな気持ちになった時、どうするかを話し合う。

予想される反応：がまんする、無視する、いやな気持ちを伝える、など。

動画教材を視聴し、「いやな気持ちになったときは決してがまんせず、「いやだ」「やめて」「だめ」とはっきり断る→その場から逃げる→安心できる大人に話す」ことを伝える。

加えて、困っているお友だちがいたら助ける行動を取ることに触れる。